

# 文化

## 沈黙に向き合う

沖繩戦聞き取り47年

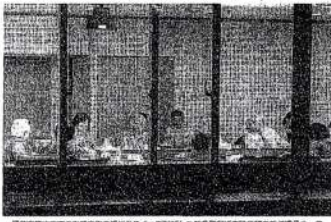
石原 昌家

〈76〉

本連載が75回目を終えた。つたので、複数の友人に連前回、一読者から連載の回数、意見を求めた。その間が長過ぎるといふ電話を受けた。

本連載は読者との応答で、図らずも内容を深めたりもしてきている。月2回、文必要かどうか、の観点から化欄紙面を一人で占めて、考えて読んでいます。ですが、良いのかどうか、いささかから、20年前の(沖繩戦体気にもなっていた)と、(改)改ざん事件がまさに

## 県との溝、一層深まる



監修委 6時間審議で疲労の色  
平和資料館問題  
監修委員6名、2月17日(土)午後、琉球新報社で開かれた第13回監修委員会。左から、石原昌家、宮城悦太郎、石原昌家、宮城悦太郎、石原昌家、宮城悦太郎。

監修委 6時間審議で疲労の色  
平和資料館問題  
監修委員6名、2月17日(土)午後、琉球新報社で開かれた第13回監修委員会。左から、石原昌家、宮城悦太郎、石原昌家、宮城悦太郎、石原昌家、宮城悦太郎。

### 消えない壁

父母に直結した、極めて現存的な、人間がどう生きるかの問題です。この連載は、ただ過去を列挙する回顧録ではありません。

「沖繩戦を改ざんしよう」としている者のなかには、ウチナーンチュも多しといふことを忘れてはなりません。だから深刻なんです。

どうぞ、堂々と連載を続けてください。この連載は学術的な「資料館監修問題緊急シンポジウム」の会場では、

## 平和祈念資料館問題⑨

# 軍の残虐性薄める

## 県、監修委に無断で大幅変更

佳境に入っているところ  
一読者の言葉は、戦争時代の空気を肌で感じて、連載を止めた方がいいという理由、という理由、からなのか、と思っ

「しかも、こぼ沖繩の歴史、あらかぎりの残虐性を集約した沖繩戦についてではないか。過筆の使命感を奮い立たせ、去った考古学ではないの、であり、私たちの両親、祖

「読者のこの言葉は、戦争時代の空気を肌で感じて、連載を止めた方がいいという理由、という理由、からなのか、と思っ

「しかも、こぼ沖繩の歴史、あらかぎりの残虐性を集約した沖繩戦についてではないか。過筆の使命感を奮い立たせ、去った考古学ではないの、であり、私たちの両親、祖

「読者のこの言葉は、戦争時代の空気を肌で感じて、連載を止めた方がいいという理由、という理由、からなのか、と思っ

「しかも、こぼ沖繩の歴史、あらかぎりの残虐性を集約した沖繩戦についてではないか。過筆の使命感を奮い立たせ、去った考古学ではないの、であり、私たちの両親、祖

「読者のこの言葉は、戦争時代の空気を肌で感じて、連載を止めた方がいいという理由、という理由、からなのか、と思っ

「しかも、こぼ沖繩の歴史、あらかぎりの残虐性を集約した沖繩戦についてではないか。過筆の使命感を奮い立たせ、去った考古学ではないの、であり、私たちの両親、祖

「読者のこの言葉は、戦争時代の空気を肌で感じて、連載を止めた方がいいという理由、という理由、からなのか、と思っ

「しかも、こぼ沖繩の歴史、あらかぎりの残虐性を集約した沖繩戦についてではないか。過筆の使命感を奮い立たせ、去った考古学ではないの、であり、私たちの両親、祖

「読者のこの言葉は、戦争時代の空気を肌で感じて、連載を止めた方がいいという理由、という理由、からなのか、と思っ

「しかも、こぼ沖繩の歴史、あらかぎりの残虐性を集約した沖繩戦についてではないか。過筆の使命感を奮い立たせ、去った考古学ではないの、であり、私たちの両親、祖

### 6時間もの審議

問題発生後、初の監修委  
監修委員と県側の溝はさらに深くなったと記している。

(今回は19日掲載)